

「魅力ある学校づくり」を進めるための

担当者連絡会 ～五中編～

発行人: 摂津市教育委員会

学校教育課

長谷川 惇

令和3年2月22日

『魅力ある学校』ってどんな学校？

「授業の様子が落ち着いてきている」「子どもの作品への温かい励ましのコメントが増えた」など市内の学校を肯定的にとらえる意見を聞くことが増えています。

子どもの頑張りを認め、子ども理解を軸とした「授業づくり」「クラスづくり」がなされているからではないでしょうか。

『魅力ある学校』といえば、どのようなことを考えますか？

12月の第一回連絡会で担当者にお問い合わせ、第一中学校の実践事例をもとに摂津市がめざす『魅力ある学校づくり』の説明をさせていただきました。

今回の連絡会は、昨年まで国の指定を受け取り組まれてきた第五中学校で開催しました。

前半は、全クラスの授業参観や取組みの実践報告、後半は、『魅力ある学校づくり』の考え方を校内に広めるための取組を共有しました。

『魅力ある学校づくり』を進めるための担当者連絡会

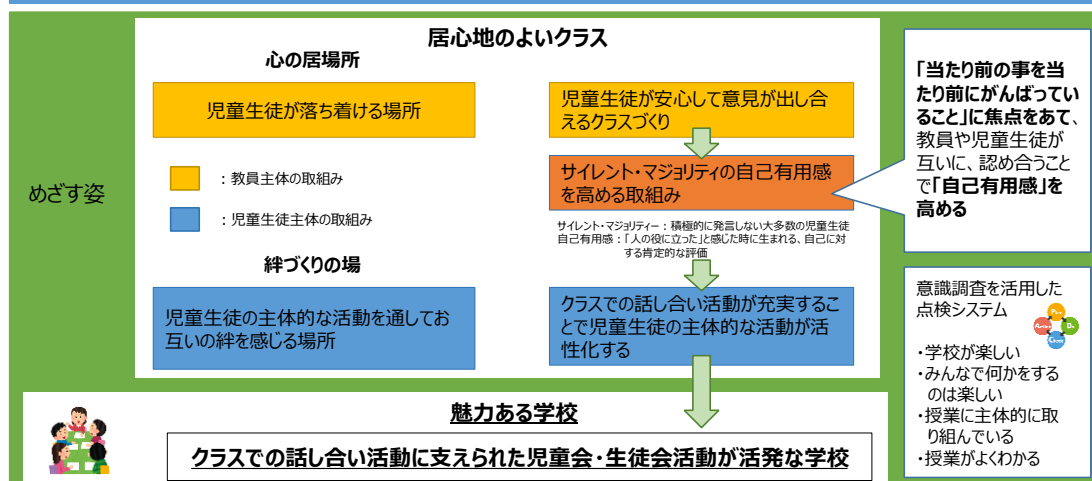
令和2年12月
摂津市教育委員会



背景	<ul style="list-style-type: none">本市の不登校児童生徒数（千人率）は、全国を大幅に上回る状態にある。平成30年度より、国の指定を受け、摂津市全体で魅力ある学校づくり調査研究事業の指定を受け、不登校の未然防止に取り組んできた。	成果・課題	<ul style="list-style-type: none">令和元年度は、中学校において新規不登校者数に減少が見られ、取組みの成果が見られた。（37人⇒31人）小学校は、新規継続不登校数は横ばいと課題が見られる。魅力の取組み＝(イコール)価値語と限定したとらえをしている学校もあり、集団づくりの考え方であることの認識を共有する必要がある。
-----------	--	--------------	---

目的	いじめ、不登校、問題行動など学校現場を取り巻く課題が多様化している現状を踏まえ、摂津市の『魅力ある学校づくり』の考え方について、 摂津市全体（全ての職員）で共通認識を図り 、これらの課題を 未然に防止する 。
-----------	--

取組み	<ul style="list-style-type: none">・教室にいる児童生徒が「学校が楽しい」「学級が楽しい」と実感できる集団づくりを行う・「居心地のよいクラス」づくりを行う	
------------	--	--



五中の学校改革

テーマは、『魅力ある学校をめざして ” 考え方の転換” と “チーム対応”』。

報告者は、こども支援 COD などを担当し、学校づくりの中心を担ってこられた山口 孝 先生。

生徒指導上困難を抱えていた状況から脱却するため、『課題解決的な指導』から『授業改善』を含め、『成長を促す指導』へと意識を変えること、当たり前のことを当たり前に行っている生徒、いわゆる普通の子にスポットをあて、クラスづくりや授業づくりを生徒と一緒にやる意識を持って全教職員で取組んできました。

最後に、五中がめざすのは、『魅力のある授業のある学校』という言葉で締めくくられました。



参加者の意見



(授業参観)

- ・聞く、作業する、話すなどメリハリがしっかりついていました。(小)
- ・授業に臨む姿勢が前向きな生徒が多く、日々の取組の結果として表れていると感じました。(中)

(実践報告)

- ・学校を変えるためには、全職員で同じ方向を向いて取り組むことが、どれだけ大切かを再確認させていただきました。(小)
- ・授業、学力、生指、生徒会、教務すべてにおいて同じ目標で足並みをそろえて、指導にあたる仕組みづくりをしていきたい。(中)

【事務局より】

「『魅力ある学校』といえば、どのようなことを考えますか？」の問いに、子どもが「行きたい」「楽しい」と感じる学校、先生もそう思う学校など、たくさんあると思います。

摂津市がめざすのは、『当たり前に頑張る子どもの姿を認め、励ます』『クラスづくり、学校づくりに子どもが参画する』ことで、自己有用感を育む、いわゆる子どもが主役となる学校づくりを進めることです。

学校と摂津市教育委員会が同じ方向を向いて、『魅力ある学校づくり』を一緒に進めていきましょう。